

序文 — 『年報』第18号の発刊にあたって—

吉 田 靖 (東京経済大学)

『年報 経営ディスクロージャー研究』第18号をお届け致します。

本号では特集(1)に、2018年5月に横浜市立大学で開催された第17回研究大会での2つの特別プロジェクトの最終報告を掲載しています。特集(2)では同研究大会の統一論題シンポジウム・ディスカッション「ガバナンスがディスクロージャーに与える影響」に登壇された3氏の要旨を掲載しています。また、「論稿」セクションには、2つの論文が掲載されています。

さて、ご案内のように本学会は2019年6月1日に日本経営分析学会との合併が予定されています。合併を円滑に実施するため、本号は2018年度中に発送などを完了する必要があります。著者の方々、編集委員には、タイトな日程の中で、多大なご協力を頂きまして感謝致しております。

また、合併に伴い、本学会誌は日本経営分析学会の学会誌である『年報経営分析研究』と統合されます。統合後の詳細は、新しい編集委員会と学会により決定されますが、『年報 経営ディスクロージャー研究』の名称で発行されるのは本号が最後となる見込みです。『年報 経営ディスクロージャー研究』は当初、「日本経営ディスクロージャー研究学会」の学会誌として2002年に発行され、それ以降本号までで100を優に超えるいずれも力作の論文が掲載されています。これまで、投稿・寄稿された多くの著者の方々、歴代の編集委員会・会長をはじめとする学会役員・学会事務局、そして何よりもすべての本学会員のディスクロージャー研究に掛ける篤く尊い志により本誌の発行が支えられて来ました。この場をお借りし、第18号の編集委員会を代表致しまして、皆様に厚く御礼を申し上げる次第です。

偶然にも、ほぼ時期を同じくして、平成から新しい時代へ移行することになります。平成期においては、ディスクロージャーの対象の拡大、伝播の高速化、内容の拡充、制度の複雑化、分析手法の精緻化・発展が著しく、様々な研究が盛んに実施されてきました。しかしながら、日本においても世界においても至る所で、ディスクロージャーに関する問題、あるいはディスクロージャーによる解決が必要な問題は、まだまだ続出しており、統合後も本学会および本学会誌が引き続き研究成果の活発な報告の場となり、ディスクロージャー研究の先頭に立って社会に貢献していくよう、切に願っております。